平成 31 年（第24回）
妙音講瞽女唄公演
プログラム

日時　平成 31 年4月 20 日（土）
午後1時30分～3時30分

会場　唯敬寺（えいきょうじ）（長岡市草生津3丁目）

主催　瞽女唄ネットワーク

出演　越後瞽女唄・葛の葉会

後援　長岡市教育委員会

第１部　妙音講　式次第

１．読経　本堂御本尊阿弥陀如来
　　脇掛瞽女御本尊弁才天

導師・三条正憲師

２．瞽女御条目の朗読　三条正憲師

３．弁天様へ京唄（地唄）奉納　「桜づくし」

横川恵子・金川真美子

第２部　瞽女唄公演　演目

１．門付け唄　「岩室くずし　横川恵子・金川真美子

２．祭文松坂「八百屋お七」忍びの段

一の段後半～二の段　室橋光枝

３．発ち唄　「おけさ」　横川恵子・金川真美子

４．金川真美子と生徒たち

小学２年　小西まなみ　小暮ゆめか　中野せら

妙音講解説

長岡瞽女の瞽女頭・山本ゴイの住まいである大工町(現、日赤町一丁目)のと瞽女の「瞽女屋」で、毎年旧暦 3 月 7 日、新暦となって 4 月 17 日に、山本ゴイの先祖を供養する法要と瞽女本尊の弁才天を祭る妙音講が開かれた。だが、昭和 20 年 8 月 1 日夜、米軍機による長岡空襲で瞽女屋は焼失し、それ以後この行事は途絶えた。その儀式を「瞽女唄ネットワーク」が平成 8 年５に当唯敬寺(えいきょうじ)を会場にして 50 年ぶりに復活、再現した。

かつて瞽女屋で行われた妙音講は、唯敬寺住職が瞽女頭山本ゴイを祀る仏壇にお経をあげ、参集の瞽女一同がお参りした。そのあと、住職が「瞽女御条目」を読み上げ、一同がかしこまって拝聴した。瞽女御条目の巻物には、瞽女の元祖は嵯峨天皇の皇女相模宮姫だとする瞽女縁起や、瞽女の守るべき規約、掟などを記した式目(条目)が書かれている。その朗読が終わればお斎(とき)となる。お斎は盛んな明治時代には、五番膳も七番膳も出たといい、みな順番に席に就いて頂いた。

お斎が終わって一段落すると、今度は紋付を着た山本ゴイと重立(おもだち)の師匠たち４，５人が前に出て三味線を揃えて京唄(地唄・上方唄)の長唄物「桜づくし」と「行く春」の２曲を弁天様に奉納した。それが終われば「座談会」となる。師匠衆は行ってきた旅での出来事やこれから訪ねる旅の行き先や組み立ての話などをする。それが終わると、若い瞽女達が自慢の唄を歌って美声

を競った。

復活した今日の妙音講では弁天様に「桜づくし」だけを奉納している。この曲は、江戸前期の地唄の作曲者、演奏家で長唄の創始者でもある佐山検校（～1694）の元禄時代の作という。妙音講が桜の満開の時期に行われることから、この曲が選ばれたようである。多彩多様な桜の名や桜の名所が歌い込まれているめでたい曲である。

瞽女唄解説

１．門付け唄「岩室くずし」

室橋光枝・須藤鈴子

長岡瞽女が地元の中越地方を旅するときに歌った門付け専用の唄。男女相愛の情を七七七五の口語文で表わした都々逸風の唄。三味線の弦をゆるめ、ジャンコジャンコジャンコと低音の調弦で早めて歌う。文句の中にイヨという合いの手が入るのでイヨ節と称する人もいた。最後の瞽女金子セキさんと中静ミサオさんは、民謡をこの曲節に合わせて門付けに歌うこともした。

２．祭文松坂「八百屋　お七」

一の段後半～二の段　室橋光枝

瞽女唄の「八百屋お七」は、紀海音(きのかいおん)作の浄瑠璃（世話物）の脚本に基づいている。「忍びの段」と「火炙りの段」が物語の山場であるが、「忍びの段」は、偶然、火事で避難した寺で会った小姓の吉三(きちざ)に恋い焦がれ、恋しい吉三に会うため、深夜、駒込寺の学寮に忍びこんで、契りを交わす激しい恋の場面。「何々づくし」や数字の畳みかけ等の口説きを特徴づけることばが随所に使われている。

３．発ち唄「おけさ」

横川恵子・金川真美子

もとは九州の「ハイヤ節」が船頭などによって佐渡の小木港に上陸して「小木おけさ」となり、その後変化して現在の「佐渡おけさ」となった。瞽女唄では「佐渡おけさ」を替歌にして唄っている。

葛の葉会プロフィール

平成７年９月、瞽女唄ネットワーク主催の「瞽女唄教室」で師匠竹下玲子師より４年間指導を受けた人たちが、平成 11 年９月「越後瞽女唄・葛の葉会」を結成、今日にいたる。現在会員４名。室橋光枝・須藤鈴子・金川真美子（以上長岡市在住）、横川恵子（南魚沼市在住）。

主催　瞽女唄ネットワーク　〒940 - 2145　長岡市青葉台２丁目 14-10 鈴木宏政方
電話　0258-46-8054（平成 29 年４月より）

■瞽女唄ネットワークのホームページは「瞽女ふたたびの道」で検索するか、または、URL：http://goze.holy.jp/ を打って、是非ご覧ください